

上尾 歴史散歩

232 上尾の古い地名をこう

■南北に細長い「小泉地区」を縦断する ～小泉～

「ぐるっとくん」を「泉台三丁目中」で下車し、三十メートルほど東へ歩くと、斜め右前方に小公園が見えてくる。右折して、「おさらぎ公園」と称される小公園の西側沿いの道路を南下するが、やがて道路の左右はゴルフ場となる。ゴルフ場は昔日の広大な平地林の面影を残しているが、道路の右側が中分地区・左側が小泉地区である。現在この道路は主要地方道になっているが、近世期の天保七(一八三六)年の「中分村絵図」でも、小泉村・中分村の境界の道路として描かれている(『上尾市史第三巻』)。



クラブハウス前の庚申塔

小泉村は古くは藤波村と一村で、近世の初期に中分村と共に分村したといわれる。近世末期の戸数は六十二戸の小村であるが、南北に大変細長い村域である。北端の下日出谷村(桶川市)境から南端の今泉村境まで約三キロメートル、東西は長い所でも約一キロメートルほどである。また村内の小字数が多いことがこの地域の特徴で、市内でも最高の二十六の小字を持っている。区画整理のされていないゴルフ場には、「大仏原



貝戸・新田・中井・上谷」などの小字名が現在も残されているのが、一つの例ということになるうか。小泉地区のもう一つの特徴は、山林面積が大きいことである。大石地域は広い山林面積を持つ地区が多いが、明治初年の記録では小泉地区が随一で、約八十町歩(一町歩は約一ヘクタール)の山林を持つている。現在は住宅地化が進んで、かつての面影は薄れたが、それでもまだ各所に古くから続く山林の姿を見ることができ(前掲書・『武蔵国郡村誌』)。

近世期に編さんされた『新編武蔵風土寄稿』では、小泉地区は「古泉村」と記され、古くは「小泉村」とも記したとある。ところが、地区内の路傍の石仏などには両様の記入があり、必ずしも一様の記述ではない。ゴルフ場クラブハウス付近の路傍庚申塔では「小泉」、泉台一丁目交差点南方の路傍庚申塔では「古泉」の文字が見られる。これらの例からみると、両様に記入していたものとみられる。

小泉地区北端から一・七キロメートルほど南下すると、「県道上尾環状線」に出る。左折して約八百メートル東上すると、泉台一丁目の交差点となる。さらに右折して新しい道路を二百メートルも南下すると右手に観音堂が見え、さらに三百メートルも歩くと右手に八合神社の森、その先で泉乗寺薬師堂など出合う。

この辺りは古くから地区の中心部で、見るべき遺跡の多い地域でもある。(元埼玉県立博物館長・黒須茂)



○に入る文字や数字を当ててください。

ことしは10月1日(金)に
平成22年○○調査があります

(ヒントは10ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。
【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、7月20日(火)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先：〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス：s55000@city.ageo.lg.jp
【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は8月号のこのコーナーで。前号の答えは「エコ」でした。ご応募ありがとうございました(応募者51人)。

市の人口・世帯
(平成22年6月1日現在)

22万7,029人

男/11万3,559人
女/11万3,470人
※前月より57人増。

9万1,817世帯

◆『広報あげお』は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」をご利用ください。